解 説

和牛振興上の問題点と対策

渡 辺 明 喜

県下の和牛頭数は戦後、順調な伸びをみまして、昭和29年には117,000頭（戦前戦後最高）に達しましたがその後、次第に減少いたしまして、本年は遂に97,000頭と、最高時より約２万頭の減少をみました。これは最近の食肉ブームのため、肉牛と殺と、県外移出が増えたことと、農業機械化により、県南部の役牛が大巾に減ったことが原因であります。幸い本年に入って仔牛の価格が非常な好調（第２表参照）を示していますので、農家の生産意欲は相当向上してまいりましたが、今後の肉需要の急激なのびを考えますと、生産頭数が余程増加しない限り、県内の飼養頭数は依然として漸減することが憂慮されます。

そこで県におきましては、さきに和牛振興対策要綱を定めまして、生産改良なり、肥育の振興について関係各機関の協力を求めてその推進をはかっているわけであります。

特に本年におきましては新しい施策といたしまして、先ず生産面におきましては、生産改良を効果的に推進するための基地を育成することとし、モデルケースとして阿哲新見地区を生産改良地域に指定しまして、主として冬期飼養改善のためのサイロの増設、増産指導の徹底、系統牛の造成等の助長を行っておりますし、次に肉畜関係では、主として農協における素牛の集団的導入に対する助成を行なって、いわゆる、肉蓄の集団産地の造成をはかることとしています。

しかし和牛飼育の現状からみますと、自給飼料の確保とか、飼育管理並びに繁殖率の向上等の生産技術面は勿論、流通機構なり指導組織の面でもまだまだ振興を、はばむ幾多の問題点が存在しているわけでありまして、これらの問題点については、夫々具体的な対策のもとに早急に打開をはかることが大切です。

そこで次のような当面の問題点と、これに対する対策をとり上げ、農林事務所農業改良普及所、家畜保健衛生所等の県出先機関並びに各畜連、農協、市町村等において現状を更に深く認識していただき今後和牛の振興について充分な指導推進を願うこととといたしました。

「振興上の対策」

１、当面の生産増加対策

(1)　種付率の向上

昭和34年中の種付率（繁殖可能雌牛に対する種付雌牛の割合）は生産地帯77%。南部地帯22%、県平均約60%で、きわめて低率であるが、（第３表参照）最近の和牛価格の高騰に刺戟されて種付意欲も相当高まっているので、この際生産地帯、準生産地帯を中心として、種率付100%を目標に庭先指導を徹底する。

（２）　受胎率の向上

和牛の使役利用が少なくなり、運動等の不足による繁殖障害と、寄生虫による栄養障害・繁殖障害牛（県下の肝蛭寄生率約15%）（第４表参照）が多いので、放牧もしくは運動等を充分行なって一般健康の維持につとめると共に、家畜保健衛生所等の一層の活動により繁殖障害並びに栄養障害を除去して受胎率を向上させること。

（３）　種雄牛の増設

山間地帯等で人工受精の普及し難い地域において、繁殖雌牛の飼養密度の高い所に対しては、種雄牛を増設して種付並びに生産の増加をはかる。

２、生産基地の育成と経営改善対策

（１）生産基地の育成

生産地帯における自給飼料の確保。飼育管理施設（サイロ牛舎堆肥舎）の状況等は、酪農、養鶏に比して、相当おくれているので（第５表参照）、牧野の積極的な改良と飼育管理施設の設備を行なって、生産基盤の整備強化をはかる。又改良面では登録の普及と、つる牛及び系統牛の造成を助長すると共に、種雄牛の後代検定を実施して、優良牛の計画生産を

推進する。

（２）経営改善指導の徹底

生産基盤の強化に伴って、漸次多頭飼育を普及して経営規模を拡大し、生産費調査に基づく飼育実態の分析並びに牧草を主体とした簡易な飼養標準等を基礎として、経営改善講習会を開催し、経営の合理化と飼育技術の向上をはかる。

３、肥育振興対策

（１）　肥育頭数の増加

現在県内でと殺され又は県外へ移出されている肉牛のうち、充分に肥育されていると思われるものは、総数の約 40%（7,000 頭）にすぎない。従って１頭当りの平均枝肉生産量は、190 kg（約 50 貫）程度で、ますますと殺頭数の増加を招来する要因となっているので、次の方法により肥育を更に普及して、その生産量の増加をはかることとする。

（ア）　幼令肥育、若令肥育については、牧草等良質の自給飼料を利用しての普及拡大をはかる。特に適地に於ける模範例をもとにして指導を行なう。

（イ）　廃用雌牛については、経済的な短期肥育を更に普及して、必ず増肉してと殺に廻すように奨励する。

（２）　集団産地の育成と共販の推進

素畜の導入から、肥育技術、畜肉出荷にいたる指導および流通体制が確立されていないので、特に農協等を中心とした共同購入、共同販売等の組織を確立し、農家における収益の向上をはかるとともに肥育農家の集団化と組合の育成強化につとめる。

（３）　肥育技術の向上

科学技術（特にホルモン利用等）による肥育は、既に実施の段階に来ているので、この普及拡大による合理的な肥育の促進につとめる。

４、取引改善対策

（１）　家畜市場の整備

家畜の取引は依然として庭先取引が多いが、殊に家畜市場（主として産地市場）についても弱小市場が多く、買手市場としての規模（入場頭数、施設）も充分でないので、家畜取引法に基づいて引き続き市場の整備統合を行ない、開設の一貫性をはかるとともに、取引慣行の改善向上につとめる。

（２）　食肉市場の設置

県で計画している県営と畜場を含む近代的な枝肉市場の設置を促進して、肉畜並びに食肉流通の改善合理化に努める。

５、指導組織の整備対策

畜産団体の指導組織が細分しているため、指導体制の一貫性に乏しい点があるので、畜産団体の整備統合を推進して、生産から流通にいたる、指導体制を強化確立する。特に農協、郡畜連、普及所、家畜保健衛生所等の連携を強め、酪農及び養鶏指導と同様、末端指導の徹底をはかること。

６、施設資金導入資金等の系統資金利用促進

経営の改善合理化、生産規模の拡大のためには相当の資金を要するにもかかわらず、従来和牛関係においては系統資金の利用が極めて、乳牛、鶏に比して低率にあるので、特、農業改良資金（技術導入資金、施設資金）農林漁業資金、有畜農家創設資金等の充分な活用、並びに、牧野改良、草地造成等県が行う助成事業について積極的な利用促進をはかるよう普及指導を行うこと。

７、和牛生産費調査について

最近の食肉需要の激増に対応するために和牛の増強をはかることは、衆自の認めるところですが、このためには従来、役を主目的とする粗放的な飼育形態の多かった和牛生産のあり方を、詳細に調査分析して、夫々問題点を把握し、今後の和牛飼育経営の抜本的改善の基礎資料とする必要がありますので、県におきましては本年度「岡山県和牛生産費調査実施要領」を定めて、和牛仔牛の生産費調査を実施することにしています。

第一表　最近の県内和牛の推移

年次 / 頭数	３０年	３１年	３２年	３３年	３４年
飼養頭数	115,680頭	113,990頭	111,220頭	102,700頭	98,220頭
生産頭数	33,326	32,153	34,400	31,200	31,470
県外移出	26,809	22,534	17,971	23,367	23,559
屠殺頭数	12,857	14,887	12,765	12,260	13,344

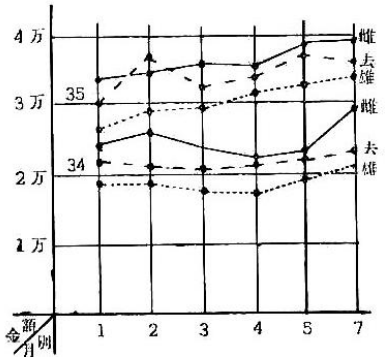
備　考　①　飼養頭数は２月１日現在　農林省岡山統計調査事務所調べ
②　生産頭数，県外移出頭数は県畜産課調べ
③　屠殺頭数は県薬務食品衛生課調べ

第 2 表　産地市場成績の前年比較　（畜産課調）

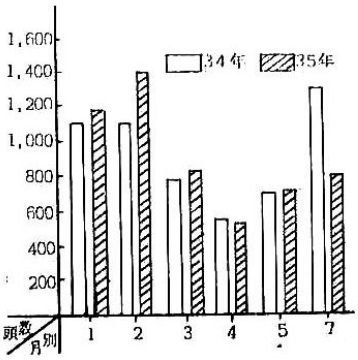
区別 / 月別 / 区分	34年 平均価格（　）は入場頭数 メス	オス	ヌキ	計	県外移出頭数
1	24,749 (1,284)	18,308 (965)	21,800 (68)	(2,317)	1,101
2	26,314 (880)	19,707 (700)	— —	(1,580)	1,111
3	23,977 (1,163)	16,953 (896)	20,800 (81)	(2,140)	801
4	21,986 (583)	16,225 (511)	— —	(1,094)	580
5	22,911 (686)	19,020 (598)	22,300 (70)	(1,354)	705
6	— —	— —	— —	—	—
7	28,807 (922)	21,204 (697)	23,678 (96)	(1,715)	1,278
計				(10,200)	5,575

区別 / 月別 / 区分	35年 平均価格（　）は入場頭数 メス	オス	ヌキ	計	県外移出頭数
1	33,200 (1,276)	26,400 (773)	30,000 (155)	(2,204)	1,164
2	34,800 (1,051)	27,700 (826)	37,700 (49)	(1,926)	1,413
3	35,900 (867)	28,200 (606)	31,800 (181)	(6,654)	831
4	35,000 (358)	30,200 (349)	33,300 (60)	(767)	535
5	38,000 (571)	32,200 (436)	37,100 (123)	(1,130)	713
6	— —	— —	— —	—	—
7	38,751 (630)	34,130 (358)	35,912 (240)	(1,228)	814
計				(8,909)	5,470

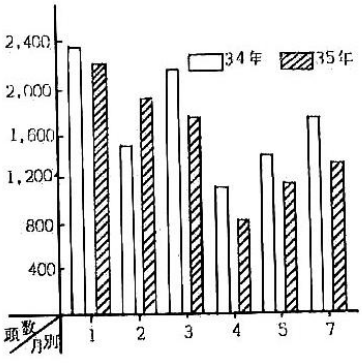
仔牛価格前年比較



県外移出頭数前年比較



産地入場頭数前年比較



第3表　和牛の地域別繁殖状況

地帯別	区分 郡市名	総頭数	成雌牛頭数	34年中 種付頭数	34年中 生産頭数	種雄牛頭数 県有	種雄牛頭数 その他	種雄牛頭数 計	種付率 %	種雌牛1頭当り成雌頭数	種付牛1頭当り成雌頭数	県営施設における人工授精状況（S34年中） 施設	種雄牛	種付頭数
生産地帯	高梁	3,108	2,097	1,342	1,192	2	—	2	64	1,049	671	1	1	263
	上房	3,779	2,117	1,306	1,136	1	—	1	62	2,117	1,306	1	—	419
	川上	3,778	2,339	1,532	1,262	1	1	2	65	1,170	766	—	—	—
	新見	5,534	3,301	2,361	2,137	8	4	12	72	275	197	2	4	1,856
	阿哲	6,164	3,682	3,097	2,772	8	3	11	84	334	282	2	2	730
	真庭	9,692	5,665	4,724	4,131	10	10	20	83	283	236	4	6	2,470
	津山	4,892	3,068	2,872	2,472	3	7	10	94	307	287	1	—	9
	苫田	6,128	3,841	3,598	3,250	6	5	11	94	349	327	2	3	1,672
	勝田	4,968	3,280	2,286	2,178	6	6	12	70	273	191	1	2	642
	英田	5,377	3,791	2,391	2,131	4	7	11	63	344	217	2	3	1,550
	久米	6,980	4,476	3,459	3,064	10	10	20	77	224	173	3	3	1,238
小計		60,310	37,657	29,068	25,725	59	53	112	77	336	259	19	24	10,849
中間地帯（生産育成肥育）	御津	4,546	1,642	864	981	4	3	7	53	235	123	2	2	491
	赤磐	4,566	1,061	455	395	2	1	3	43	353	152	2	1	753
	小田	2,664	2,047	1,189	1,363	2	2	4	58	512	297	2	2	1,437
	笠岡	1,610	1,224	346	304	—	1	1	28	1,224	346	—	—	—
	後月	912	529	269	296	2	—	2	51	265	135	—	—	—
	井原	1,827	1,510	611	712	1	3	4	40	377	153	1	1	406
	吉備	3,070	1,612	511	484	1	2	3	32	537	170	—	—	—
	総社	2,039	599	289	361	—	2	2	48	300	145	1	—	204
小計		21,234	10,224	4,534	4,896	12	14	26	44	393	174	8	6	3,288
肥育地帯	岡山	915	212	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	倉敷	1,530	786	168	139	—	2	2	21	393	84	1	—	235
	西大寺	1,420	155	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	玉野	476	119	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	児島	190	69	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	玉島	467	131	31	21	—	—	—	24	—	—	—	—	—
	和気	4,147	792	284	286	—	—	—	36	—	—	1	—	104
	邑久	2,690	1,176	39	33	—	—	—	3	—	—	1	—	39
	児島	1,551	457	29	26	—	—	—	6	—	—	1	—	28
	上道	770	111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	浅口	863	593	386	312	—	—	—	65	—	—	1	—	322
	都窪	1,104	391	41	32	—	—	—	11	—	—	—	—	—
小計		16,123	4,992	978	849	—	2	2	20	2,996	552	5	—	728
合計		97,667	52,873	34,580	31,470	71	69	140	% 65	378	247	32	30	14,865

（注）（1）総頭数，成雌牛は農林省岡山統計調査事務所調
（2）種付頭牛，種雄牛頭数は畜産課調

第 4 表　牛（和牛，乳牛）に対する肝蛭寄生状況

市町村名	検査頭数	寄生頭数	寄生率%	市町村名	検査頭数	寄生頭数	寄生率%
岡山	144	12	8.0	賀陽町	409	89	21.8
倉敷	295	48	29.3	北房町	150	12	0.8
津山	304	3	0.9	成羽町	420	63	15.0
玉島	100	3	3.0	川上町	525	176	34.0
笠岡	191	41	21.5	備中町	282	36	13.0
西大寺	295	1	0.3	大佐町	522	113	21.6
井原	461	34	7.4	哲多町	425	83	19.0
高梁	831	230	29.0	哲西町	352	65	18.0
新見	867	321	37.2	神郷町	452	53	11.5
津高町	331	52	16.0	勝山町	777	166	12.0
吉井町	215	45	20.9	落合町	811	146	18.0
赤坂町	100	13	13.0	美甘町	108	19	18.0
邑久町	237	10	40.0	新庄村	167	7	4.0
鳴方町	121	3	2.1	川上村	272	31	12.0
矢掛町	331	80	24.2	久世町	200	22	11.0
美星町	884	175	19.2	苫田郡	895	31	3.4
有漢町	196	61	29.1	全県計	17,542	2,637	15.0

（備考）家畜保健衛生所における昭和33年度寄生虫検査成績から1市町村当り100頭以上の検査地区のみを示した。　畜産課調

飼養形態と飼養状況

(32.9.1 緊急畜産センサス)

割合(数字は集落数)				集落として共同利用する面積						サイロのある農家数	サイロ基数
濃厚飼料				採草地			放牧地				
ほとんど自給	5割以上	2割以上	2割未満	この集落の人達で	他集落の人と共同で	他町村の人達と共同で	この集落の人達で	他集落の人と共同で	他町村の人達と共同で		
				町	町	町	町	町	町	戸	基
3,199	889	408	294	5,502	2,972	159	3,494	12,052	282	8,499	9,216
78	31	7	15	67	18	—	—	—	—	105	107
92	42	10	3	115	67	1	—	—	—	307	310
143	6	1	—	1	—	—	—	—	—	148	170
97	14	28	16	154	—	—	88	1,901	6	118	147
58	61	41	18	460	512	—	845	6,347	81	528	550
142	114	68	77	1,364	1,121	4	860	1,052	195	1,050	1,202
93	37	10	—	552	140	152	—	—	—	905	924
46	56	28	9	1,572	52	1	1,690	2,751	—	1,567	1,709
67	61	22	8	532	231	—	—	—	—	1,557	1,708
170	74	18	11	472	794	1	—	—	—	314	325
104	64	33	1	17	3	—	—	—	—	667	686
1,270	560	266	158	5,306	2,938	159	3,483	12,051	282	7,266	7,838
221	66	12	9	39	13	—	—	—	—	55	62
133	18	5	3	27	—	—	—	—	—	52	57
226	15	2	2	30	—	—	11	1	—	201	242
90	17	1	14	—	—	—	—	—	—	38	39
79	15	3	—	11	9	—	—	—	—	89	105
155	12	—	—	11	—	—	—	—	—	210	214
125	6	12	3	4	—	—	—	—	—	100	111
60	32	6	7	—	—	—	—	—	—	84	90
1,089	181	41	38	122	22	—	11	1	—	829	920
116	27	18	8	3	—	—	—	—	—	21	23
68	23	1	40	—	—	—	—	—	—	67	79
105	11	19	9	—	—	—	—	—	—	11	11
6	7	19	16	—	—	—	—	—	—	6	10
3	9	11	1	—	—	—	—	—	—	3	9
62	5	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—
231	8	3	—	41	—	—	—	—	—	101	107
155	15	8	7	—	—	—	—	—	—	79	79
78	11	2	5	—	—	—	—	—	—	52	65
28	—	—	1	—	—	—	—	—	—	15	18
100	18	7	7	16	—	—	—	—	—	42	50
68	14	9	3	14	12	—	—	—	—	7	7
1,020	148	101	98	74	12	—	—	—	—	404	458

第 5 表　和 牛 の 地 域 別

		経営目的別農家数				合計	飼料自給の			
							粗飼料			
		生産	育成	肥育	使役		ほとんど自給	5割以上	2割以上	2割未満
県計		戸 40,154	戸 5,844	戸 3,739	戸 32,795	戸 82,532	4,570	186	29	5
生産地帯	高梁	288	13	4	2,356	2,661	115	12	4	—
	上房	952	188	46	2,139	3,325	144	2	—	—
	川上	1,957	517	2	229	2,705	149	1	—	—
	新見	2,818	33	3	16	2,870	118	28	8	1
	阿哲	2,945	31	4	12	2,992	173	5	—	—
	真庭	5,818	131	20	107	6,126	389	10	2	—
	津山	3,680	30	12	93	3,815	131	8	—	1
	苫田	3,812	56	5	11	3,884	138	1	—	—
	勝田	3,159	57	209	533	3,958	155	3	—	—
	英田	4,196	139	129	343	4,807	271	2	—	—
	久米	4,478	—	—	1,249	5,667	202	—	—	—
小計		34,093	1,195	434	7,088	42,810	1,485	72	14	2
中間地帯	御津	445	299	796	3,086	4,626	274	34	—	—
	赤磐	241	192	292	3,799	4,524	158	1	—	—
	小田	3,092	272	28	32	3,424	239	6	—	—
	笠岡	1,361	192	25	2	1,580	101	18	3	—
	後月	548	110	9	184	851	96	1	—	—
	井原	—	14	21	1,751	1,786	166	1	—	—
	吉備	159	677	85	2,731	3,652	146	—	—	—
	総社	2	769	53	1,615	2,439	96	3	5	1
小計		5,848	2,525	1,309	13,200	22,882	1,276	64	8	1
肥育地帯	岡山	1	13	56	1,288	1,358	167	1	1	—
	倉敷	2	178	134	1,723	2,037	132	—	—	—
	西大寺	—	113	24	1,548	1,685	189	14	1	—
	玉野	5	—	—	454	459	35	13	—	—
	児島	4	3	—	196	203	24	—	—	—
	玉島	—	49	7	486	542	70	1	—	1
	和気	144	1,542	1,243	971	3,900	240	2	—	—
	邑久	3	57	356	2,295	2,711	175	9	1	—
	児島	—	47	49	1,068	1,164	94	1	1	—
	上道	—	—	1	625	626	29	—	—	—
	浅口	52	98	102	678	930	122	7	3	—
	都窪	2	24	24	1,175	1,225	92	2	—	1
小計		213	2,124	1,996	12,507	16,840	1,309	50	7	2